

電子情報工学専攻 授業科目関連表

科目群		1 年		2 年	
		前期	後期	前期	後期
専攻指定		数理統計・多変量解析特論 半導体産業特論 電子情報工学特別講義 A I	電子情報工学特別講義 A I	(数理統計・多変量解析特論) 電子情報工学特別講義 A II	電子情報工学特別講義 A II
研究科共通		知的財産権出願特論 工学展望特論 (社会人向け) 論文発表演習  大学院・国内インターンシップ 大学院・長期インターンシップ	I S O 学特論 ベンチャービジネス特論 論文発表演習 企画力養成演習 大学院・国内インターンシップ 大学院・長期インターンシップ デジタル技術活用基礎論	(工学展望特論 (社会人向け)) (論文発表演習)  (大学院・国内インターンシップ) (大学院・長期インターンシップ)	(論文発表演習)  (大学院・国内インターンシップ) (大学院・長期インターンシップ)
国際教育科目		国際会議発表演習 学術英語論文発表 国際インターンシップ 短期留学 国際特別講義I 国際特別講義II	国際会議発表演習 学術英語論文発表 国際インターンシップ 短期留学 国際特別講義I 国際特別講義II	(国際会議発表演習) (学術英語論文発表) (国際インターンシップ) (短期留学) (国際特別講義I) (国際特別講義II)	(国際会議発表演習) (学術英語論文発表) (国際インターンシップ) (短期留学) (国際特別講義I) (国際特別講義II)
	研究領域C 情報処理・情報通信	計算知能特論 計算機科学特論 計算機科学PBL演習 先端センシングシステム特論※	計算知能PBL演習  先端センシングシステムPBL演習		
	研究領域E ナノサイエンス・ナノテクノロジー	半導体工学特論 半導体デバイス工学特論 半導体デバイス工学PBL演習 ナノ材料工学特論	  ナノ材料工学PBL演習	半導体工学PBL演習	
創成工学教育科目		生産管理論特論 I ものづくり管理工学特論 産学官連携創成工学演習 電気システム設計演習	生産管理論特論 II 実践企業学 造船工学特論 先輩から学ぶ先端科学技術		
特別研究		電子情報工学特別研究 I	電子情報工学特別研究 II	電子情報工学特別研究 III	電子情報工学特別研究 IV

※ 隔年開講科目

赤字はコアカリキュラム

工学研究科電子情報工学専攻

科目群		到達目標	ディプロマ・ポリシー（DP）との関連			
			DP1	DP2	DP3	DP4
専攻指定		学生は、電子情報工学分野のエンジニアとして多角的視点から論理的に物事を考えることができる。	◎	◎	○	
		学生は、電子情報工学に関する知識を実際の技術や製品と関連づけることができる。	◎	◎	○	
研究科共通		(研究科の方針にあわせる)	◎	◎	○	○
国際教育科目		(研究科の方針にあわせる)			◎	○
研究領域教育科目	研究領域C 情報処理・情報通信	学生は、情報処理・情報通信分野に関して、その主要な技術・理論を説明することができる。	○	◎	○	
		学生は、情報処理・情報通信分野に関する知識を、実際の技術や製品と関連付けることができる。	◎	◎	○	
	研究領域E ナノサイエンス・ナノテクノロジー	学生は、ナノサイエンス・ナノテクノロジー分野に関して、その主要な技術・理論を説明することができる。	◎	○	○	
		学生は、ナノサイエンス・ナノテクノロジー分野に関する知識を、実際の技術や製品と関連付けることができる。	◎	◎	○	
創成工学教育科目		(研究科の方針にあわせる)	◎	○	○	
特別研究		学生は、電子情報工学分野に関するさまざまな知識をもとに、与えられた課題を期間内に解決することができる。	◎	◎	○	○
		学生は、電子情報工学分野に技術が実社会に与える影響を理解し、与えられた課題に対し適切な解決方法を選択できる。	○	○	○	○
		学生は、自らのアイデアをプレゼンテーションし、それをもとに議論することができる。	○	○	◎	◎

**DP1: 半導体分野の高度で深い専門知識および技術と同時に電子工学の幅広い専門知識を有し、これらを実課題に活用することができる。**

**DP2: 統計学や情報工学の基礎と応用を理解し、複雑で多様なデータを活用する高度な実践力を発揮することができる。**

**DP3: 分野の多様性を理解し、グローバルなコミュニケーションを実施することができる。**

**DP4: 学際分野を理解し、技術開発のプロジェクト・マネージメントを円滑に実践することができる。**